

## 胆江圏域の地域医療構想に係る具体的対応方針について

### 1 地域医療構想について

急速な少子高齢化が進む中、医療介護需要の増大と疾病構造の変化が予測され、限られた医療資源を効率的かつ効果的に活用することや、医療と介護の連携を図るため、患者のニーズに応じ、高度急性期から急性期、回復期、慢性期、在宅医療・介護に至るまで一連のサービスが切れ目なく、過不足なく提供される医療体制の確保を目指すもの。

### 2 具体的対応方針の調査結果について

県として、各医療機関における病床機能や 2025 年を見据えた今後の方向性（具体的対応方針等）についてとりまとめ、その内容等について、毎年、「胆江圏域地域医療連携会議」の場において、内容を確認するもの。

胆江圏域内の病院及び有床診療所から報告いただいた病床機能別病床数については、資料 2-2 のとおりである。

#### <概要>

#### ア 圏域内の病床数について

2025 年 12 月 31 日現在の病床数は、1,237 床（精神病床を除く）となっており、2025 年に必要とされる病床数である 1,114 床を 123 床上回っている状況。

なお、令和 7 年において、県立江刺病院 58 床、総合水沢病院 10 床、民間診療所 20 床、計 88 床が廃止されているもの。

#### イ 病床機能別病床数について

	[参考] 2014 年 (H26) 時点 の病床数	2025 年 12 月 31 日 現在の病床数 (B) 【今回調査】	2025 年 の必要病床数 (C)	必要病床数との 差分 (B) - (C)
高度急性期	0	0	0	0
急性期	825	367	357	10
回復期	60	467	312	155
慢性期	606	344	445	▲101
休棟中	0	59	0	59
計	1,491	1,237	1,114	123

※ 病床機能報告制度とは病院・有床診療所が医療機能の現状と今後の方向を自ら 1 つ選択し県に報告  
「高度急性期」 急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、診療密度が特に高い医療を提供  
「急性期」 急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、医療を提供する機能  
「回復期」 急性期を経過した患者への在宅復帰に向けた医療やリハビリテーションを提供  
「慢性期」 長期にわたり療養が必要な患者を入院させる機能

### 3 今後の対応について

今年度、国が策定するガイドラインに基づき、新たな地域医療構想の策定に向け、引き続き胆江圏域地域医療連携会議の場において協議していく。